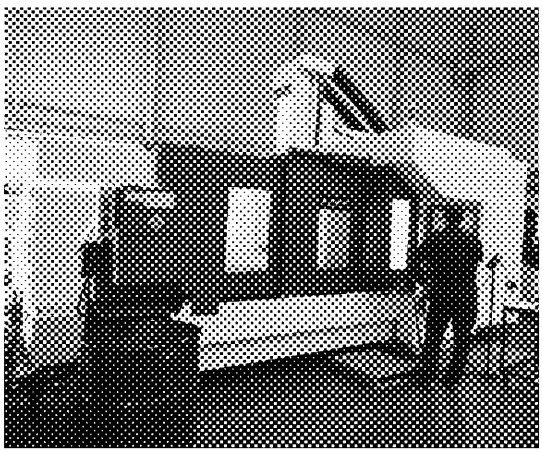
大型部品加工を増強

メタルテック、門型MC導入

【福山】メタルテック（広島県福山市、木村武美社長）は、主力の尾道工場（同尾道市）で機械加工の能力を増強した。大型の加工対象物（ワーク）を切削できる門型マシニングセンター（MC）を導入した。建設機械や造船、金型向けなど大型部品の加工ニーズが増えているのに対応する。投資額は周辺装置含めて約1億円。

導入したのはキタムラ機械（富山県高岡市）の門型MC「ブリッジセンター―10G」。テーブル寸法は幅1370ミリ×長さ3000ミリメートル。通常構造の門型機に比べ、設置面積を小さく抑えられることから選定した。CAD図面を読み込んで、加工領域の設定を自動で行う自社開発のコンピューター利用製造（CAM）ポストプロセッサーとの連携が取りやすかったことも機種選定の一因。事務部門で進めているRPA（ソフトウエアロボットによる業務自動化）の活用などとも合わせて、業務を効率化する。



尾道工場に導入した門型MC

尾道工場では2023年にも、テーブル寸法が横3050ミリ×奥行き820ミリメートルと長尺部品を加工できるMCを導入している。引き続き、長尺や大型の部品の加工需要が伸びているため、対応機械を増強した。

併せて、熱処理や製缶など自社で生産設備を持たない工程についても、広島県東部の備後地域に集積した製造業のネットワークを生かして受注を強化。25年10月期に約15億円の売上高を5年後には30億円まで伸ばす。

無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社